

新年に寄せて

— 信仰年をどう生きるか —

信徒代表 松尾 真一

主の平安

新年あけましておめでとうございます。

私は、昨年の「風」新年号で、10月から信仰年が始まるのでこれにちなんでカトリックの要理を再確認し教会の信仰を「知」として正確に身に付けたい、その上で第2バチカン公会議とは何であったのかを勉強してみたいと抱負を述べました。

実は、その当時から、自分で「たぶん口先だけになるだろうなあ」とは思っていました、一年経ってみるとやはりそのとおりにになりました。

残念。

今、私の手元には「カトリック教会の教え」と「第二バチカン公会議公文書全集」が積まれています。

積ん読(つんどく)だけですべてが血肉になれば良いんですけどねえ。

「公文書全集」の方には、何箇所か付箋が貼られているのですが、いったいいつ貼ったのだろう、黄色い付箋が茶色に変色しています。

信仰年が始まる日に出された司教団メッセージ「信仰年を迎えるにあたって日本の教会の課題」における司教団の意向でも最初に「第二バチカン公会議の目的の再確認を挙げているし、そもそも信仰年が10月11日から始まるとされたのは第二バチカン公会議が始まった日が10月11日だったからなんですね。

だから、もう一度「第二バチカン公会議公文書全集」を繙いてみよう。

付箋の貼ってある頁を開くと「教会憲章」の「35 信徒の預言職」でした。

「キリストは信徒を証人に定め、信仰の感覚とことばの恩恵を授けて、福音の力が家族と社会の日常生活の中に輝きわたるようにした。

・・・かれらはこの希望を心の奥に隠してはならないのであってかえって改心(ママ)の努力とこの世のやみの支配者に反対し、悪霊に反対する戦いを続けながら、世俗の生活を通してそれを表すようにしなければならない。

」と書いてある。

ふむふむ。

次に付箋を貼しているのは「信徒使徒職に関する教令」の「4 霊的生活」です。

「キリストと緊密に結ばれたこの生活は、教会において、すべての信者に共通な霊的助け、特に聖なる典礼の行動的な参加によって養われる。

信徒は日常生活における世間の務めを正しく果たし、キリストとの一致を自分の生活から切り離すことなく、かえって神の意志に沿って自分の仕事を行いながら、キリストとの一致を深めるように、この霊的助けを用いなければならない。

・・・家庭の仕事も世俗の仕事も、けっして霊的生活と無関係なものでなく、『あなたがたが、ことばと行いとをもって行うことはすべて、主イエス・キリストの名によって行い、主によって父である神に感謝しなさい。』（コロサイ 3・17）と使徒聖パウロが述べているとおりである。

」なるほど、なるほど。

現代世界憲章も読んだ痕跡がある。

「92 すべての人との対話」には「教会は福音の知らせによって全世界を照らし、またあらゆる国、民族、文化に属するすべての人を一つの霊の中に集めるという使命の力によって、誠実な対話を可能にし、強化する兄弟愛のしるしとなる。

このためにはまず境界自身の中に、相互の尊重、尊敬、協調を盛んにしすべての正当な相違を承認したうえで、一つの神の民を作っている司牧者もその他のキリスト信者も含めたすべての人の間に、常に実り豊かな話し合いを育てることが要求される。

・・・すなわち必要な事ならにおいては一致、疑わしいときには自由、すべてにおいて愛が重んじられるべきである。」

そのようにできているかなあ？ 結局、第二バチカン公会議の目的の再確認として私たちがまずすべきことは、キリスト教信仰の核心のしるしが「愛」であることを再確認することではないでしょうか。

「あなたがたに新しいおきてを与える。

互いに愛し合いなさい。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを皆が知るようになる」(ヨハネ 13・34-35)

しかし、そもそも多くの信者が神を求めたのは、苦痛、悲嘆、不安、恐怖、寂寞といった状態が自分の内奥に生じているのに、自分自身の能力ではそこからの脱却が困難だと知った時、その生存の危機を乗り越えさせ、自分自身が真に生かされるよう自らの存在を支える究極的な意味と価値を与えて欲しいと願ったからだと思います。

そこでは、救われるべき対象は自分です。

ところが、イエスは、その救われるべき対象を、すなわち愛のベクトルを隣人・他者に向けよとされた。

その転回こそが信仰だとされるのです。

どうして私たちにそれができるようになるのか、それは、わたしたちが神に愛されていることを知るからです。

ありのままの弱く惨めな自分が、重荷を背負うばかりで何も成し遂げられない自分が、他人を傷つけた過ちを償えずにいる自分が、そのままの姿で、かけがえのないものとして愛され大切にされている。

そのことを知ったときにはじめて、私たちは、隣人を愛することができるようになるの
でしょう。

そしてそれがキリスト教の信仰なのです。

というわけで、信仰年としての今年「神に愛されている自分を知る」ところからスタート
するというのはいかがでしょうか。